

平成 29 年度 庄内支部 勉強会報告

『認知機能と歩行・運動の関係について～生活期における実践例～』

平成 29 年 11 月 22 日(水) 19:00-20:30 酒田医療センター講義室 参加者 60 名

◇講義 池田 拓洋 氏 (山容病院)

「認知機能と歩行・運動の関係について」

「精神科単科病院における理学療法の展開～当院における身体的リハビリテーションの現状～」

◇実践報告① 丸山 裕也 氏 (介護老人保健施設みずばしょう)

「生活期で実践! 認知機能と運動へのアプローチ」

実践報告② 中里 祥子 氏 (なえづ老人デイサービスセンター)

「認知症対応型デイサービス ～当施設の取り組み～」

池田先生の講義では、ご自身が働く上で感じた疑問から Clinical Question の整理を通して、修士での研究内容を中心にお話していただきました。また、作業療法士によりリハビリテーションが中心となっている精神科単科病院において、理学療法士として取り組む内容、近隣病院への連携、普段の業務における葛藤や今後の目標を教えてくださいました。

丸山先生の報告は、介護保険における認知症短期集中リハ(加算)として施設で取り組んでいる工夫や現状についてのお話でした。一定期間の介入後に認知機能低下を防ぐ実績が出ていること、機能評価バッテリーを系列の回復期病院と連携して把握する取り組みを発表していただきました。

中里先生の報告では、認知症認知症対応型デイにおいて、利用者の方の人生背景や役割づくりを大切にされた取り組みのお話がありました。

それぞれの実践報告に対して、池田先生よりコメントやアドバイスを頂戴し、発表者の方々にとっても新たな視点を発展させる内容もありました。医療保険分野に勤務する方にとっては、病院を退院し自宅・地域へと帰った後の生活イメージ、人生イメージをする貴重な機会になったのではないかと思います。地域包括ケアシステムの促進という目標に向け、理学療法士として、医療・介護分野の連携をどう支えていけるか、考えるきっかけになったと感じました。

多数の方から参加申込があり、駐車場の関係から会場を急遽変更する形となってしまいました。

参加者・発表者の皆様、準備等に携わりました方々、本当にお疲れ様でした。(文責;長岡孝則)

